

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4 期連続トップ当選

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



一般質問：8 市連携市長会議と国際園芸博

この場所は米軍上瀬谷通信施設跡地

8 市連携市長会議と言うのは、横浜市が横浜市と隣接する自治体と共通施策で連携するために自治体トップで構成した会議と言うことになります。その横浜市が開催するのが「国際園芸博」という国際イベントで、大阪万博に匹敵する規模の博覧会となっています。横浜市がビックイベントをするわけですので、町田市などに協力を依頼して当然のことと言えましょう。ただし、この間、町田市長が「国際園芸博」開催で協力を求められたふしがありませんでした。



海軍道路の両側は鉄板の板囲いで何も見えない

ニュースで「国際園芸博」の起工式に高市総理が出席して挨拶する光景がありました。ただし、町田市長は出席しておらず、尋ねてみると呼ばれていませんでした。今後、工事が本格化すると、工事車両や工事の人が行き来することで町田市の東名町田インターを抱える場所付近は通過に相当の時間を要することになるでしょう。まずは、そうした問題から始まり、次いで「国際園芸博」中の混雑、次いで園芸博後の開発で、この海軍道路周辺が大きな変貌をきたすことだけは間違いありません。(続く)

東京ビックサイトで同日開催の企画相違

産業交流展×ビジネスチャンス EXPO in TOKYO

同日開催だった、産業交流展×ビジネスチャンス EXPO in TOKYO の動員数に大きな相違がありました。前者は東京都が主導したもので、後者は設置者の東京ビックサイトが運営トップになっています。

どちらも中小企業の出展がメインとなっていましたが、東京都の企画では膨大なブースの割に、出展企業同士の事業内容に関連性がほとんど見られず、来訪者に「すきま」商品の探求の物珍しさは理解できても、提携を求めたい企業担当者がわざわざ足を運ぶには至らないだろうと思いました。そのためには、ブースはあっても展示物も人も見当たらないコーナーもありました。

他方で、「ビジネスチャンス EXPO in TOKYO」は、地方の県や大都市が出展の主体になっており、テーマが明白でした。島根県や福井県の海産物や福岡県の新興農産加工物産の展示が目立っていました。都市では札幌市のブースが際立っていました。ジェットコースター製造の三精テクノロジー株式会社の乗用大型ロボット(4 人乗り)が展示され、試乗が人気で、私も並んで乗り込み、高所から会場がユーチューブ動画撮影できました。



関連性が薄い中小企業を集めただけでは商売にならず

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田発技術を駆使使用した水耕栽培メロン 全国に広がる産地を結集、まずは日本一を決める

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員 3 名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

吉田つとむ



ブログ



個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第57期生が先行スタート。

スパイラルインナーMiGUの紹介NEWS②

首から着ても、足から入れて着脱自由の素材

前号で初めて紹介しました「スパイラルインナーMiGU」は、ユニバーサルファッション協会(柳原美紗子理事長—吉田つとむは理事の一員・全員が無報酬)がその中の研究部会で長年開発に取り組みで、このたびようやく製品化できたものでした。製品の特長は前回に記事に述べたものですが、開発の態勢は、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター(産技研)の技術支援のバックアップがあり、株式会社アイソトープが製造を担当したものです。



その三位一体で開発したスパイラルインナーMiGUが、株式会社中川政七商店が主催する「地産地匠アワード2025」で優秀賞を得たものです。そうした経緯があって、この「スパイラルインナーMiGU」はその「株式会社中川政七商店」によって発売されたところでした。その中川政七商店は小田急町田駅にも小売店舗を出すのですが、町田店は「スパイラルインナーMiGU」の店頭販売の対象にはなっていませんでした。商品自体が「ユニクロ」や「しまむら」で販売されるような廉価品ではないために爆発的に売れるとは思えませんが、「株式会社中川政七商店」がネット販売をすると言うことで、堅実なスタートをしてもらいたいと願っています。

インターン体験記④ 古閑 永都

今回は議会の構成と会議の在り方に関して講義を受けました。議会は大きく本会議と委員会の2つに分けられ、委員会はさらに特定の分野ごとに協議を行う常任委員会、特別委員会、円滑な議会運営を目指す議会運営委員会に細分化されます。このような場において議案の採決は普通、過半数を必要としますが少数政党の意見は多勢に無勢であえなく退けられます。そんな議会内には「会派」というものが存在し、政党に捉われず同じ政治思想を持った議員同士が会派を結成することによって発言時間や発言力、提言をする際など様々な場面で恩恵を受けることが見込めます。しかし、いわば違う組織に片足ずつ突っ込んでいる状態で毎度のようにどちらにも充足な判断、というのは望めないでしょう。その中ではしばしば政党と会派による議員の板挟みが起きているのではないのでしょうか。

あくまでも会派は議会運営などの短期的なものではありますが、おざなりにすると会派での立場にも影響してきます。無理して二兎を追うよりも程よい着地点を模索する方が議員としての体裁を保つことに繋がるのかもしれませんが、こういった二勢力の非対称性を是正するのが「根回し」だと感じています。少し前に活発に取り沙汰されていましたが根回し自体に問題があるわけではありません。開かれた議論を助けるも殺すも境界線の引き方次第だと私は理解しています。



私立高校2年生 古閑永都(第57期生)

◎上記の記事中、吉田つとむはこのNPO法人の理事ですが、その団体は全員が無報酬です。さらに、吉田つとむは議員になって以降、その全ての期間が国保、高齢者保健加入であり、全額自己負担をしています。今回、議員が社団法人の理事になり、組合健保加入のやり方で少額の保険料負担で済ませていたことは極めてずるやり方だと批判を受けるべきだと考えています。

*次期のインターンシップは2026年春季、第57期の受け入れで照会中です。現在までに合計115名が参加。